

答 辞

令和元年度
卒業式

暖かな春の光に、厳しかった冬の寒さも和らぎ、新たな生命の息吹が感じられるこの良き日に、私たち579名は前橋育英高校を卒業します。

本日は私たち卒業生のためにこのような盛典を挙げていただき、誠にありがとうございます。またご多用の中、ご列席くださいました諸先生方、並びに来賓の皆様方に厚く御礼申し上げます。

今、この場に立って3年間を振り返ると、これまでに経験したことのないほど濃密で、一瞬の出来事であったように感じられます。前橋育英高校で過ごした3年間は、多くの出会いと経験、そしてたくさんの感謝に満ち溢れたものでした。

入学後初めての行事で、クラスの仲間と良好な関係を築いた新入生遠足。全力でプレーし、クラス一丸となって盛り上がった体育祭。科や類の垣根を越えて全員で一つのものを作り上げた文化祭では、多くの方々に来場していただき、大成功を収めました。そして高校生活最大の行事であった修学旅行。3泊4日、仲間たちと過ごすことで多くの思い出を作ると共に、戦争の歴史と悲惨さを肌で感じる事ができました。また、部活動では、硬式野球部の夏の甲子園出場、サッカー一部の全国選手権をはじめ、様々な競技や文化活動でめざましい活躍を見せてもらいました。

3年間充実した高校生活を送ることができたのは、どんな時でも側にいてくれた仲間のおかげです。他愛のない会話で笑い合った友達、自分の悩みに真剣に耳を傾けてくれた友達、ライバルと呼べる友達。こういった仲間がいつも周りにいたからこそ、どんな障壁や困難も乗り越えることができました。時には喧嘩をすることもりましたが、そのたびに少しずつ相手を思いやることができるようになりました。「こいつとはずっと友達でいたい。」そう思わせてくれた友達にたくさん出会えたこと、心から感謝しています。ありがとう。

そして未熟な私たちを熱心に指導してくださった先生方。勉強面だけでなく、私たちが間違った方向に進みそうな時、親身になって叱り、丁寧に教え諭してくださいました。私たちの活躍を心から喜び、困ったときは的確なアドバイスをくださる先生方は、私たちにとって心強い存在でした。本当にありがとうございました。

そして、私たちが無事卒業式を迎えることができたのは、いつも一番近くで見守り、支えてくれた家族のおかげです。この感謝の気持ちをうまく形容する言葉が見つかりません。仕事や家事で疲れているのにも関わらず、毎朝早く起きて準備をしてくれたり、私たちの幼いわがままや反発も受け止めてくれた父母。どんな時も陰ながら支えてくれた祖父母。普段は恥ずかしくてなかなか言葉にできませんでしたが、この場を借りて言わせてください。18年間育ててくれてありがとうございました。まだまだ未熟で迷惑かけるとは思いますが、これからも私たちの成長を見守っててください。

私たちは4月から、さらなる学問の高みを目指す人、社会人として自立する人など、それぞれが新しい環境に身を置きます。現代社会はグローバル化、少子高齢化、情報化など、私たちを取り巻く環境がさまざまに変化し、その変化に応じて新たな問題や課題が日々生まれ続けている社会といえます。変化がめまぐるしい現代社会で生きていく私たちには、完全な答えや他からの手助けが得られない困難な状況が予測されます。しかし、私たちは前橋育英での「出会い」と「学び」を胸に、一歩ずつ着実に成長していきます。その歩みをもって、より良い社会作りに貢献し、未来を切り開いていくことをここに誓います。

名残は尽きませんが、皆様のますますのご活躍とご多幸をお祈りするとともに、前橋育英のますますの発展を祈念して、答辞の言葉とさせていただきます。

令和2年3月2日

卒業生代表

岩淵 圭佑